

おはようございます。

まずは12日にハートピアで行われた瑞浪福祉まつりボランティアに参加した9名の皆さん。主催者から、中学生が本当によくやってくれた、距離的に遠い南中から多く参加してくれて、あの子たちのような中学生がいてくれて、本当に嬉しい。みんなに厚くお礼を言いたい、とのお言葉をいただきました。周りの人の心に響くボランティア、いつもながらにすばらしいですね。今後も大切にしたい活動であり、気持ちです。

さて、今日から後期です。節目ですので話をさせていただきますが、この時間は私の思い出話につきあってください。テーマは「夢をもつことの大切さ」。2、3年生には3月にドラえもんの話をしていただきましたが、あの話と同じテーマとなります。

ある中学校にA君という生徒がいました。A君は私が顧問を務めるソフトテニス部の部員で、熱い男でした。彼は1年生の頃から夢を語っていました。「西濃大会で優勝する」という夢でした。まあ、今年度本校からは県大会、東海大会、全国大会に出場した選手もいますので、それと比べれば小さな夢と感ずるかも知れません。が、夢に大小はありません。「西濃大会優勝」が、確かにその時のA君の夢でした。で、彼は努力しました。「まずは体力だ」とひたすら走り込みをしました。そんな彼の夢を応援したく、彼が3年生の時には、日曜日も個人的にテニスの練習に付き合ったものです。結果、彼の夢がかなったかと言えば、実はかないままでした。西濃大会に出場はしましたが、1回戦負け。完敗でした。

彼はテニスをやめました。次に彼が取り組んだのは競輪、自転車競技でした。卒業式で、彼は私にこんな夢を語りました。「先生、俺、テニスでは勝てなかったけど、高校で競輪 頑張るわ。中学時代にいっぱい走ったもんで足には自信ができたし。将来は競輪選手になるで見てよ。」中学卒業と同時に、彼は「競輪選手になる」という新たな夢を見つけました。

そんなA君と次に会ったのは、その5年後、彼は就職していました。競輪選手になるというあの時の夢について、私は尋ねました。A君は「いやいや、ととてもとても」と笑顔で答え、高校での練習の厳しさ、周りの選手のレベルの高さ、血尿を出しながら練習したこと、転倒に巻き込まれ大けがをしたこと、でも部活動は最後まで続けたことなどを話してくれました。そして、こう付け加えました。「競輪選手どころかまともに大会にも出られなかったけど、でも先生、今の会社の面接で“あの高校で競輪を3年間続けたのはすごいですね。即戦力として期待していますよ”とか言われてさあ、競輪やってよかったって思っとる。競輪部の仲間と今でも仲よくしとるしね。」

皆さんお気づきですよ。A君ですが、「テニスの西濃大会で優勝する」という夢も「競輪選手になる」という夢もかなえられてはいません。でも、すごく幸せそうなんです。思えばA君は、いつも夢をもっていました。いつも一生懸命でした。だから人生が楽しそうで、自分に自信をもっています。そのことを思うと、やはり夢って大事だなあと思わされます。かなうかなわなないかだけで夢を語るのは間違いです。夢は人を頑張らせる力であり、明るく自信に満ちた人生を与えてくれるものだと思うんです。

学校は、皆さんの夢を応援する場です。自分の夢を、そして、その夢に近づくための日々の小さな目標を大切にしてください。この後期が、皆さんにとってかけがえのない有意義なものとなるよう願っています。

思い出話に付き合ってくれてありがとう。後期も夢をもち、わくわくしながら頑張らしましょう。以上で話を終わります。